

# 平成23年度病害虫発生予報第11号

平成24年2月1日  
愛知 県

タマネギ白色疫病の発生量はやや少ない状況ですが、降雨が続くと短期間でまん延する恐れがあるので注意しましょう。

キャベツ菌核病は、罹病作物上に形成された菌核が次作の伝染源となるので、被害残さを集めて畑の外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

トマト黄化葉巻病の発生量は平年並ですが、今後気温の上昇にともない、本病原ウイルスを媒介するタバココナジラミの発生量が増加し、本病の発生量が増えることが懸念されます。タバココナジラミの防除を徹底するとともに、発病株は伝染源になるので適切に処分しましょう。

果菜類の灰色かび病の発生量は、トマトとキュウリで平年並、ナスとイチゴでやや少ない状況ですが、施設内が多湿になると発生が拡大するので、積極的に換気や送風を行い過湿にならないように管理しましょう。本病の発病果や発病葉は伝染源になるので、速やかに取り除いて適切に処分しましょう。

ナスとキュウリのミナミキイロアザミウマの発生量は平年並になりましたが、施設内の温度が高く推移すると、急激に増加することがあります。ほ場での発生状況に注意し、早めの防除を心がけましょう。

ナスとキュウリのうどんこ病の発生量がやや多い状況です。多発すると防除が難しくなるため、初期防除に努めましょう。

キュウリべと病の発生量が多いほ場があります。過湿にならないように、施設内の換気や送風を積極的に行いましょう。また、草勢の低下は発病を助長するので、適正な肥培管理に努めましょう。

イチゴのハダニ類の発生量が多い状況です。今後、気温が高くなると急激に増加するので、発生ほ場では農薬で防除しましょう。なお、ハダニ類の密度が高いほ場に天敵を導入する場合は、天敵に影響が少ない農薬を散布し、密度を下げってから放飼しましょう。

## 野菜

### ・予報内容

| 作物名          | 病害虫名            | 発生量<br>(発生時期) | 主な<br>発生地域 | 予報の根拠                          | 予報への影響 |
|--------------|-----------------|---------------|------------|--------------------------------|--------|
| タマネギ         | 白色疫病            | やや少ない         | 全域         | 1月下旬の発生量はやや少ない<br>2月の降水量はやや少ない | －<br>－ |
|              | べと病             | やや少ない         | 全域         | 1月下旬の発生量は平年並<br>2月の降水量はやや少ない   | ±<br>－ |
| トマト<br>(施設)  | 葉かび病            | やや少ない         | 全域         | 1月下旬の発生量はやや少ない<br>2月の日照時間はやや多い | －<br>－ |
|              | 灰色かび病           | やや少ない         | 全域         | 1月下旬の発生量は平年並<br>2月の日照時間はやや多い   | ±<br>－ |
| ナス<br>(施設)   | すすかび病           | やや少ない         | 全域         | 1月下旬の発生量は平年並<br>2月の日照時間はやや多い   | ±<br>－ |
|              | うどんこ病           | やや多い          | 全域         | 1月下旬の発生量はやや多い                  | ＋      |
|              | 灰色かび病           | やや少ない         | 全域         | 1月下旬の発生量はやや少ない<br>2月の日照時間はやや多い | －<br>－ |
|              | ミナミキイロ<br>アザミウマ | 平年並           | 全域         | 1月下旬の発生量は平年並                   | ±      |
| キュウリ<br>(施設) | べと病             | 平年並           | 全域         | 1月下旬の発生量はやや多い<br>2月の日照時間はやや多い  | ＋<br>－ |
|              | うどんこ病           | やや多い          | 全域         | 1月下旬の発生量はやや多い                  | ＋      |
|              | 灰色かび病           | やや少ない         | 全域         | 1月下旬の発生量は平年並<br>2月の日照時間はやや多い   | ±<br>－ |
|              | ミナミキイロ<br>アザミウマ | 平年並           | 全域         | 1月下旬の発生量は平年並                   | ±      |
| イチゴ<br>(施設)  | 灰色かび病           | やや少ない         | 全域         | 1月下旬の発生量はやや少ない<br>2月の日照時間はやや多い | －<br>－ |
|              | うどんこ病           | 平年並           | 全域         | 1月下旬の発生量は平年並                   | ±      |
|              | ハダニ類            | 多い            | 全域         | 1月下旬の発生量は多い                    | ＋      |

### ・防除対策

#### 〔ナス（施設）・うどんこ病〕

同一系統薬剤の連用は避け、初期防除に努めましょう。パンチョTF顆粒水和剤、ラリー水和剤などで防除しましょう。

#### 〔キュウリ（施設）・うどんこ病〕

同一系統薬剤の連用は避け、初期防除に努めましょう。スコア顆粒水和剤、アフエットフロアブルなどで防除しましょう。

## 〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

気温が上昇すると発生量の増加が著しくなり防除が困難になるので、早めにダニサラバフロアブルやスターマイトフロアブルなどで防除しましょう。天敵を導入している、あるいは今後導入を予定しているほ場では、それらに影響の少ない農薬を選定してください。

## 参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台1月27日発表）

### 〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

向こう1か月の平均気温は、低い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率70%です。3～4週目は、低い確率50%です。

### 〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：50% 平年並：30% 高い：20%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

### 〈予想される天候の特徴〉

当地方の向こう1か月の天候は、冬型の気圧配置が現れやすく、寒気の影響が現れる時期があるでしょう。

### 〈特に注意を要する事項〉

1週目は気温がかなり低くなる見込みですが、2週目は気温の低い状態は一旦解消するでしょう。

## 「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬の紛失・盗難に注意し、気づいた場合は直ちに警察に連絡しましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。